



夢物譜

195
2.245



明り
箱
巻

虚實爰物詰巻



田沼主殿頭生立奉

附加増奉



爰小寺列古良城田沼主殿頭出生成致よ父々
田沼市左衛門と云々記伴大納言吉宗云に御休とて系
於此来る時よ兄弟ありて成市を帝寺と良助とて不
言二百名あり小納戸あり徳よ兄弟を帝格七女
才良助格良あり兄弟を帝不意量成才良助と
慈願よ出さる良助格良あり時格良あり出さる
出さる携とて良量ありて女智万人携れ享保

十九寅二月十日初夜任之切米二百俵并
家室云の由小姓と云石田同在平布二月廿日又武
作付二百俵と云元文二年己十二月廿日叙官又後下直殿
少あり延享四年九月十日小姓組番以格成増高
武子名中直寛延元辰因十月叙官小姓組番以格作付
奥向兼常由増子名初合本武子名同己年十月
十八日例元作付由用由九次成室曆又亥九月九日名
由増初合寺万石 家室云由増同十二年二月十日
又子名由増初合寺万石石月和己亥年七月叙官例
由用人元作付又子名由増初合二万石叙官品臺列由良
城室成侍後元任又子名由増初合武万石石同己年十月

十日又子名由増奥向兼常如判列元作付老中兼座
初合二万石安永六年四月廿七日子名由増と云万石名
天明元世年七月十日寺万石由増と云万石名同己年
三月廿八日寺万石由増初合又万石名あり時同己年
午八月廿七日病氣身由及由免落同格元作付享保
十九年より天明六年迄又格武年と云由増十度あり
享保又年の生と云上之実、
六年の生と云く二格と云 由と云市在處存命の以市を帝乳母
と云子に吉又帝と云く由歴の由賣本武丁目少あり又男成
若者ふれを侍侍抱由是今の井上伴藏之時夫の
己年二月廿日於殿中子息山城守横死の事と云了書
丁由殿中了新由書佐由書由と云仁有と云昔佐野源

左馬常世二代孫として佐世刑於國言と云て上列
氏名一郡より一足利二代義詮に奉て常世
より二十七世佐野若尾藤系三言也代々の系名持来れ
り佐系小田沼家より大才より一系名ふくして主殿
足成安乃の上列氏名別佐世くく首一田沼大明神
社より佐野五言の建立は田沼大明神の由來と云
五言任國の初世色澤田七民甚く及雜義五言は奉
考く産神一宮大明神形くく神の山品一深沼と
埋極上の田地と云ひ七民等雜を以の佐世家繁昌
の爲一社成建く吉田二位殿一形くく正位乃官中
正位田沼大明神と奉崇り佐系一官殿氏男子一若

佐野家の系名有、我系名と作る程も云々
思ふくま、小納戸没佐世村在處と云ふ人、
け仁と稱、
其義新書佐世若尾の方本家ふれは、
其系名、
新左馬中これ、
實の、
忠孝

車武つし致中しつひ子先拾波ふとと事なるれ
 中獲員の取羽織とお止舞おし止託そ沸成と事ぬ
 くるまより三夜田沼家と恨し止耐ふと思りて後
 田沼と海と形書はと勤れも只と田沼家と恨し
 心は絶て思はるると道理之

佐野吉左衛門田沼家成恨事

附奥方力成付る事

時よ吉左衛門友の二月半旬在るの候復冬替杯は致
 二月廿五日朝奥方へ向ひ申付るに吉左衛門は
 伴を連波の差の室へ申付て申付られし奥方野
 是といふ事來りし左衛門のこゝろもや涙と少産り

取吐る事市一一定て我事あるのこゝろ妻振てと今ふ
 邪摩よも女と存は絶て天一度縁と法の二子返と
 と事し上ふれはつゝ室口ゆて左衛門のこゝろは
 寄しひの差又邪へありて思召はつゝ屋敷の行はみ
 一女は此を並市にぬと泣きたるに吉左衛門は只
 とく移んとして居しと事ありしと事親を思召はつ
 是と事目害しと事果すゝと事吉左衛門は先流しと事
 流しつゝ吉左衛門はと事志とたれと事おのこゝろは
 りと事ふれをえしと事武士乃娘武士の妻ありし我
 り能事流しと事と事我事我事と事知る事
 通流在る事常世の事流し今少事ふれと事武士武

事あり田沼あり家の事等とありしは流石と稱
法親敷の何と申すは皮中上目見山場先の子孫は
山場先近山城ありて空せし事根の事田沼と刀
根及之より序遠と云大舟の波もたれはしは
不及是非亦過ぬとも明き日尚書ありは何卒運と
天下の何せ刀根人の事成極ありて是を敵とせず
捨山城も後近親の事と感と震と危と山城と
未だも根成たちと事とありは程の事柳生の先
師乃山形と一流の奥敵と云度思ふは刀の先祖是
二代將軍 家光より洋願と云る東國廣くは
新は英他紀内の事と云南無佛と云る全の事と云

拙針金の塗拙は是少く仕向ふ心は夫れ伴と右運里は
仍ありし今日け世の別と云る涙は下はせしむせし
奥方け涙を流すと云るみちる涙と押流しと涙
取上らるるは悲むものなり家の事先祖親敷
は中沢具も今日日本中や乳香子と恵もぬ
とのあり田沼と赤とありは我場ありて討死仕
事ありと流人乃ありと事と名を末代に
残しありて必伴後を安んずるもふれ生長の上
は英武士にありて名もいふは是を姓は何れは性
に致しと勇武ありと云の肉を刺す苦處あり
もけと云と事と云る其元は事と云る上の別あり

至せん〜〜曰の新敷茶碗を丸玉 是は佐世軍持の御事
付新敷茶碗を丸玉

仍世例と引違〜やけ茶碗人少く引違の至は紋子具

はも佐世代傳より〜一ヶ所なく墨付漆是之有

少くは末〜或り佐野家の立巻も来るとも〜は

大切と致さ〜と夫々奥方の道具少く供よ〜を

若殿一和〜駿河屋の室〜は紋子も奥方の室

少〜ける一切吐〜事少〜

佐野若殿 中室は奥方の室

附家来少吉屋 丸玉
叔若殿版下女一人侍を中室に人を召寄りし少く
涙を来〜と皆との暇を〜方た久敷我屋敷

小勅〜依急〜暇を〜難儀乃〜〜男女た〜金子

少〜死を〜暇を〜を〜叔父屋敷に年々〜勅〜

浮田久屋〜と之〜親父〜是成〜一回〜酒杯の〜

審〜中〜叔父仕〜事少〜涙を〜身寄〜暇を〜

たり其方後〜玄関と掃除技家〜傳〜籠中〜

長刀具是亦〜勝相〜明自〜登城〜侍式人

中室〜人雇〜一休〜事少〜御城〜向〜の遊〜海也

中室〜立巻〜本屋敷〜持向〜叔父〜家屋敷〜事

久敷実神〜お勅〜者〜我公〜極〜容〜吐

〜〜〜存〜涙具〜中室〜ける〜必〜他〜

次乃敷〜少〜金子〜拾遺〜丸玉〜久屋〜口〜一坊お

海近我屋敷に居下り如何極く最るるを何と云ふ
斗中庵一又事海に於て其後肉に云若隠居方にもお
吐下りしやうこれ久右衛門大い事と云ふに云はれ
居りしやうの御い液をさし中にもい存を業を形り
幸し山言下り上極と云ふ事之末山年若る山前と云
之中上げ親父の白髪首成抱へ山居居後や幾何者極
何事申候へ仕代け山居敷に何事か云ふ二つの時山言
中上り今めり山用と云ふ事老れ成り山言人如
云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々
事人との心の事云々云々云々云々云々云々云々云々
若くは云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々

せめて事人如何極くも子後をめぐりし切敷下り山言是
少幾休め事云々云々云々云々云々云々云々云々云々
之も云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々
も云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々
山言云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々
非少の左極云々云々云々云々云々云々云々云々云々
尾能山言云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々
羅と云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々
山言云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々
を吊ひ下り云々云々云々云々云々云々云々云々云々
的山城云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々

波ふらに中道そ量る處及少と志くく波よ是れ
居られし暫く久右衛門と申す何れと急なり
予く人成産しと申す對史方玄因杯掃涂せ家の
傳る所の老文字赤比、言半因定玉次、刀柄小実乃
鑑二爪南垂波の細金の兜を御鑑長刀弓矢近勝並
く其夜の水垢離して法神を拜し久右衛門と法衣表の
ゆくと今やくと傳はるる公の内を是非もふこ

佐野若尾馬田沼山城志成事

附水社本六節勇智事

松平對馬守子抽事

此は世に言すてに佐野も抽はるは、疎く我場出陣の

中そ久右衛門はと登してけ米くも、大荒増中安形並
時刻も移る成と波流く出まきく久右衛門も今と浪
の出まかれは、中水をくあふる子、のふ系ふく、此を
志す、志をくが、社に、是れ、見送り、省、節、も、以、余
取、目、と、急、く、と、申、す、は、是、非、と、か、く、立、向、り、後、ろ、新
の、見、ゆ、る、近、見、送、り、く、内、中、我、は、入、り、る、公、の、社、名、の、原、く
ま、く、家、之、相、言、處、及、少、登、城、新、書、元、浩、和、と
不、能、業、何、の、申、す、立、忍、人、と、思、業、法、鏡、る、亦、に、殿、中、焼、火
之、間、法、没、人、退出、希、通、り、不、な、れ、け、し、亦、我、能、忍、不
之、と、免、れ、れ、我、浩、和、言、い、我、ま、く、く、て、焼、火、を、障、子、服
小、行、法、の、く、今、や、く、と、忍、の、法、居、り、山、城、も、及、少、と

後中と知れしは、まごり、まごり、は、知れし、毎り、か、ら、ま、ごり、を
減し、運の極、之、是、支、を、知、田、沼、あ、ら、山、の、ま、ごり、し、は、其、以
指、の、城、の、後、普、徳、も、う、た、米、出来、上、り、不、中、丈、工、棟
梁、其、其、奥、の、る、遠、る、用、向、を、上、り、ま、ごり、上、拂、向、ま、ごり、其、
し、ま、ごり、し、知、れ、し、は、山、田、沼、中、身、少、も、拂、向、不、棟、瓦、棟
梁、ま、ごり、思、ひ、せ、是、非、指、の、城、表、の、内、に、ま、ごり、
の、表、首、く、り、お、果、く、り、は、里、夜、の、ま、ごり、見、出、し、後、撤、り、
中、ま、ごり、れ、山、城、の、後、少、も、世、秘、事、を、ま、ごり、少、く、氣、に、撤、り、
ま、ごり、ま、ごり、ま、ごり、其、目、横、死、の、前、表、と、志、く、ま、ごり、た、り、ん、云
り、の、の、西、也、撤、り、後、ま、ごり、不、退、出、し、ま、ごり、成、ま、ごり、右、田
後、後、米、倉、丹、後、米、倉、同、乃、る、山、城、の、後、取、り、一、取、り、

退出、通、り、物、を、ま、ごり、付、音、を、後、元、の、情、を、ま、ごり、ま、ごり、
た、れ、い、備、列、丹、列、後、を、後、り、ま、ごり、一、尺、或、寸、の、束、圍、廣
ま、ごり、後、ま、ごり、一、教、年、の、り、詩、文、目、録、端、先、の、恨
の、丹、音、を、後、り、右、方、味、中、境、を、ま、ごり、ま、ごり、撤、り、一、赤、ま、ごり、
切、撤、り、れ、一、右、余、り、公、せ、り、ま、ごり、左、焼、火、を、る、の、時、序、
右、方、先、切、ま、ごり、南、ま、ごり、仕、損、を、り、ま、ごり、二、右、方、い、ま、ごり、切
付、ま、ごり、一、今、後、音、先、切、ま、ごり、山、城、の、後、少、も、其、
大、し、難、ま、ごり、い、ま、ごり、ま、ごり、退、出、せ、ん、と、せ、れ、ま、ごり、退、出、
り、眼、後、の、腰、の、津、を、を、突、通、り、一、と、右、ぐり、右、ぐり、ま、ごり、
た、り、ま、ごり、丹、後、米、倉、ま、ごり、次、ま、ごり、右、方、退、出、後、米、倉、
と、ま、ごり、右、方、合、ま、ごり、右、方、ま、ごり、殿、中、の、組、面、ん、と、其、見

江門の是るは誠し亦法のりり坂と町とを袖安程の者
其申すもともや支方面沼原のい色く藤原の被りとも
書生も其申す終にお果すこと

評定所より捲川お播き捲る事

附山村佐佐木守智の事

去程一月廿九日山評定所より知松平周防も後久世
大相も後右面備後も後米倉丹後も後松平對も久松
能成も山月丹安取の意野宮村母形書院捲川
相播き支町事乃其外山流月山少日自高書院
日人等にお播き時、古書屋飯とより同公丸田の
評定所にお出白砂は居る、其時捲川お播き後

その支配法世若くは後中として不憚り不届者も
以得た未新書後不右内天下の山籠中より
いそく日砂は五の後右側より有る後山守其れは
周防も後初としてお列の之象成りて評定所
極類の上並ぬ時、周防も後守りて、其元後礼
心も其申中殿中成りて、其天下の山月代
ある若年考没お勤る山城守の事と為負は後
おのて後、其代ともこれ、古書屋守りて、山評定
中披す、其字一巻、其被懐中仕在る、其元後同
及、其山守合山及人、其申す、其山守、其得九一向、其面
成りて、其山守、其出、其申す、其山守、其成、其山守

此は... 山を... 出... 常... 夜... 風...
 上... 山... 夜... 常... 山...
 赤... 天... 神... 常... 一...
 常... 武... 神... 常... 例...
 常... 常... 常... 常...
 常... 常... 常... 常...
 常... 常... 常... 常...
 常... 常... 常... 常...

常... 者... 法... 山... 常...
 常... 常... 常... 常...
 常... 常... 常... 常...
 常... 常... 常... 常...
 常... 常... 常... 常...
 常... 常... 常... 常...
 常... 常... 常... 常...
 常... 常... 常... 常...

佐野古石庵切腹事
 附松平射馬者反古加増事

時不日月之揚在教よおわく佐世吾居切後
作舟按使くく大在幸い其外山流月自果人自
些方同公立合女錯人同公幸人扣武人相揚り在教
切後他法白張屏風双半纏り公く專或も吾居
公為上市浅黄小袖白絹志也人少く在りは時
大在幸い夜中りく其元後去二月吉日礼公
中ふく殿中事と子伴及双場田沼山城事と子病を
為負終り山城事お果以上死罪少とて大作舟
取と在り悲感以切後作舟仍為按使大在幸い
其裁たりと中りこれ吾居居夜中り日と実山按使
苦勞も事公之以下按使事科人く身と主罪

いとは不承作舟神機懸る武士他法切腹直死後
難多仕合事存りく立合り没入一礼有て其後
事りく口今作舟安取仕知山城事夜我お果
くその後是之取海事世以上中女建九寸と子押
戴勇く教切後此致り付女錯りこれ一在りも
袖成ゆりく事りく死骸親親占事下五浅草
門取内神田山徳本寺占葬り相直殿取夜は其
不首尾成りと評判りく大下お遠り又く出動り
子お智山没我茶お動り殿中強動り不首尾山没
人数多りる中に大目舟相平對り夜中茶の幸
挽りて吾居居と抱面り微り老人公拭り動り水

獲英武百石は加増す中重なり相又之帝乳虫一卷
吾在處取之合及人内上りて是事れ其自教以展の
威光よ其と誰持たざるもふりたる、新金銀一奉
其之自教以展威勢活山結虫尻、乃中、法大名も
縁を結の古子娘も成世、人其教を知、次相又家
老利人、娘子も又、妾近縁を求む貴ひ、結虫尻
もも、俄人面敷を、や中、未、初、言、も、眼、前、之
忌、あ、る、や、と、可、家、百、姓、返、と、笑、ひ、事、の、事、

指石の坊屋敷の奉

附依田豊前守殿大丈丈

時小先年御初屋極花火山見物、也る自教以展奥

向成持を、湯出、其方、泉、水、中、海、見、額、子
山、深、山、殿、を、建、れ、ん、と、思、は、ま、し、日、り、法、も、大、小、名、尻
より、進、物、未、送、考、も、珍、未、其、教、お、び、た、り、木、日
、内、上、案、上、り、海、見、額、荒、増、の、事、を、受、に、指、二
五、教、其、方、指、忌、掃、庵、摺、茶、檀、の、数、も、て、其、に、あ、り、を
か、海、織、の、為、縁、之、縁、古、子、綿、床、板、も、其、珍、細、カラ
全、成、入、る、床、下、と、法、屋、根、其、珍、の、瓦、中、上、の、玉、銀
之、口、方、風、鈴、銀、少、指、上、殺、乃、淨、子、何、と、も、猪、子、は、し、て
腰、每、り、入、全、奥、と、教、天、井、と、入、猪、子、古、佐、給、も、原
海、草、成、画、七、是、と、紺、入、全、奥、と、教、遠、の、棚、座、も、る、ハ
忌、檀、も、や、入、の、教、を、其、の、掛、物、古、法、眼、庵、の、鐵、其、の

綿少く表具したる之袖之主柄は若根家より送きたる
 根の鶏之花活き小堀氏より送りぬ如程の横目申す二ツ
 の花生之續山殿より海見頼と稱す柄を朱塗にせし
 銀乃きやうし揚巾と書ゆ天系根石と組上たる石
 垣之泉あり大川口續山門を扉事ハ鯉射すまじしを
 於陣中しつわわく心細之艘左形を総巻とせし九
 鬼氏より進物之細私左根形之誠は清隣頼康の
 玄宗の首領とてん更々之扱山殿出来りしを清
 左山入をりし柄りし時よ東城之主と書しし山内居
 少く後園豊前守及以年七拾八才少く我侯東道の
 生れ付成りしは清左屋標山入後之を以紙の中をて

之は文に内談し不及時よ主殿に及下番不之氣し居
 合せしとてを幸に豊前守及以年七拾八才少く我侯東道の
 生れ付成りしは清左屋標山入後之を以紙の中をて
 るよんそ家ハ清左屋標と斗中く怪しぬ思ふまじし
 大納言採山生し上ハ清左屋標同前之將軍初志
 すと時よんて、尾將軍のしつ政乃の事と山更々山内
 を怪しぬ妻同前よ夜分入私る花火山見柄標と
 後東城以東安足守りしは山更々豊前守山内居相
 勤内ハ荷柄山内談ししは山更々山内居相
 成りしは山更々豊前守山内居相
 とし中より豊前守及以年七拾八才少く我侯東道の
 生れ付成りしは清左屋標山入後之を以紙の中をて

中より一錢と不異に乞食たす之石成投るも
たすを先く流しあり中に者の町人奴も
悪口を乞ひ石を投る止せと厚く弱也勝林も
減るを乞ひ石を投る止せと厚く弱也勝林も
佐野田原もあはれを乞ひ石を投る止せと厚く弱也勝林も
上野津靈屋と福と熱米津もたす人門も全銀とあり
その石壇石焼籠一對去り大名流りも物牡丹屋全
九曜口も菱もあはれを乞ひ石を投る止せと厚く弱也勝林も
名も後名も香真納も本伏もも系譜も大名流りも多
り又系譜も流り七日も系譜も流り大名流りも多
成信も本もあはれを乞ひ石を投る止せと厚く弱也勝林も
流人あはれを乞ひ石を投る止せと厚く弱也勝林も

醫道重罪

時、天明五年七月の辰尾列公は病氣殊外重しせり
付田原主殿は口作付曲曲茶を乞ひ上意の時、
主殿は及思やう尾列公は家才一賢人の常を乞
ひひるふ今度曲曲茶を乞ひと爰、池原雲仙と
云ふ医者あり彼を尾列公は脈伺の爲、尾列公は脈を
乞ひひるふ知、曲曲茶調合して先上り、尾列公は脈を
六人へけ曲曲茶成請、尾列公は脈を乞ひひるふ知、曲曲茶調合して先上り、尾列公は脈を

内云伯の茶葉と味七人と立合ひて...
終よらんめうの包たる成丸出され是...
此と尋たれい云伯今大梅り兼...
山指を流し洋回門加と不指...
の後一早く殿様山指刀を...
教とて産中強勁し及る...
此出中...
先つかは總掛と中...
醫術流一...
れ...
云彼口中出...
上池系...
家絶...
と中...
又人

中...
小...
と...
後...
下...
叔...
急...
成...
後...
酒...
今九死一生...
後...
家...
加...
海...
也...
り...
け...
上...

月番老中中連以味筋もろく石中連也幸此ハ
誰ある云云挨拶及より子一付成彬集人云幸
事ハ各々も雲伯と云云大切ハ是名ハ有ハ
親類の内ハ松前ハ某と云者中よりハ以海ノ上ハ
少彦海も是也果ハ不及是耶雲伯海云ハ後
尾列極ハ出情ハ山彦ハ何事ハ友人ハ挑来直友ハ
形ハ事ハこれハ能ハ知ハ大切ハ是名ハ有ハ尚
友人能ハ事ハ一判ハ其ハ被病氣ト有ハ雲伯
連ハ後ハ事ハこれハ親類ハも雲伯ハ事ハ是ハ
清見ハ後同ハ事ハ雲伯ハ後ハ事ハ是ハ
事ト容ハ是ハ被ハ尾列ハ事ハ是ハ雜義ハ是ハ

又ハ竹腰成彬ハ事ハ智ハ能ハ事ハ雲伯ハ事ハ是ハ
者ハ是ハ世ハ大和ハ事ハ後依田豊前ハ事ハ是ハ
事ハ是ハ某ハ又日春ハ事ハ是ハ病年ハ事ハ是ハ
余程ハ有ハ識ハ主殿ハ大膽ハ事ハ是ハ能ハ事ハ是ハ
誰ハ事ハ是ハ事ハ是ハ事ハ是ハ

豊子代君西邦占事為入事
附高末能後事勇氣事

時ハ先年大納言極目急沸成ハ事ハ是ハ急病氣
の事ト云ハ急病ハ事ハ是ハ急病ハ事ハ是ハ急病氣
急病ハ事ハ是ハ急病ハ事ハ是ハ急病ハ事ハ是ハ
急病ハ事ハ是ハ急病ハ事ハ是ハ急病ハ事ハ是ハ
急病ハ事ハ是ハ急病ハ事ハ是ハ急病ハ事ハ是ハ
急病ハ事ハ是ハ急病ハ事ハ是ハ急病ハ事ハ是ハ

石上これ其下血氣を悪毒と爲成之殿以辰清前を
中上と云ふる、余り血切るは血氣を悪毒と云ふ
清馬少く血合を中上これ其は清馬引
七層と云ふ殿以殿中上これ其は清馬引
山内海の血切半丁余り血切るは血馬を引と云ふ
血出山内海の血切半丁余り血切るは血馬を引と云ふ
入山醫師流石は血切半丁余り血切るは血馬を引と云ふ
況之仍密還清之能の内は葉成入事と云ふ況之
既後其其日方お仕せし中上と云ふ、誠は時悪毒と云
石中大血は清前丸は借人として出た如くも珠
子清前丸中上血切半丁余り血切るは血馬を引と云ふ

少く減し時の移り事と云ふ不及其後の依まら
出勤なり清石の馬少く毒汁と云ふは流石のわらなくみ、大納言採清繁昌
少く未清田向手採出世と云ふ後、我兄少く少く
此と云ふ大くみなりと云ふ、夫は一橋の豊子代君を我
兄持と云ふ、奥向清前丸採を採、西丸は血清前丸採、大
薩列は血切を我伴人と云ふ、清前丸は血切を我感を
少く少くおそる、と云ふ、血切を血切、血切を血切、
血切を血切、血切を血切、血切を血切、血切を血切、
大名荒少く血切を血切、血切を血切、血切を血切、
文了不捕只座を血切、血切を血切、血切を血切、
血切を血切、血切を血切、血切を血切、血切を血切、

しく其人の没替は武指人指人より全銀を九世没替の
の常は言ふ所あり。病氣進門也没替を方々に云はれり
我病氣死是邪とふと後之に上又く山五持平持子と
仕とる其は中奥山性より末解後とるに仁光祖
より末九助と御尚家代への忠臣の家之統より仁光二家
より別を才の家は二代持軍家光公に大名格より出せ
ころ兄九助は我候との友より上子名とるもこれに識
御尚家より末氏の忠家と云へり其子孫尚附六子名
縄外多くとるに事とる殿に史乃く上代持整比が
孝とく世内と能下代撰へてお良乃城附。彼は解
後と解外跡多と云ひ居るとるに時老也別在直殿

中奥の中没替とるに形は解後と形は何れを解後
の中とるに中と云はれし世の中は中世と云はれし世の信
中、海老之殿中跡とあるに病氣と偽り又殿也と云
云時八君の袖つと成門と云やと呼はれ成前武士と
中人は信乃勅の内と出勅と云はる麻老と云はれける
に成りし中とるに時在申の面より云はれ行を振りし
若く殿に殿一と云と中とるに知り持とるに子殿と云は
これより成りし主殿に殿も史とるも一と云と云は出
習言より病氣と云は出勅と云はれし世の信乃佐持と云
とる侍と云はれしとる

赤井越前守系於強勅靜る夏

附伏見大行院仕重事

時、元年、系部、當帝の弟二帝、四月廿五日、
清愍、霜月廿七日、清志、當帝、四月廿五日、
清愍、廿七日、院、持家、七清、花、近、紙、紙、痛、め
あり、九條、教、少、右、清、門、の、社、家、深、川、世、母、を、召、す、中
より、天地、無、嗣、兼、天、文、精、士、古、清、門、の、次、子、今、幼、少
なる、是、に、迎、家、弟、を、れ、い、は、度、の、清、愍、白、志、を、り、の、作、り
深、川、世、母、清、志、清、愍、を、夫、より、七日、の、る、庭、と、り、次
皇、后、人、を、七、時、の、考、法、を、法、ん、て、行、す、九、條、殿、
内、に、中、上、を、清、涼、殿、より、成、立、す、當、り、て、或、信、堂
を、さ、う、い、帝、位、を、全、と、の、ま、り、中、上、九、條、殿、法、院、代

久世大和守殿に付後、
作、渡、る、清、愍、中、上、の、院、宅、を、致、さ、り、大、和、守、殿、を、
案、免、す、い、は、い、も、文、に、い、は、る、落、と、越、前、守、殿、を、成、
安、法、の、世、後、拙、者、を、作、付、す、道、を、内、詮、義、仕、出、
は、と、趣、と、中、上、を、れ、と、院、を、中、上、と、中、上、と、中、上、と、
は、も、い、越、前、守、殿、由、宅、後、世、力、を、院、同、公、に、持、人、と、
如、致、中、上、後、り、久、多、く、中、上、を、召、す、を、召、す、を、
支、度、を、召、す、い、他、り、致、る、を、中、上、付、夫、を、毎、日、八、幡
町、柳、の、厨、子、の、を、と、侍、系、履、丸、本、を、或、は、為、茶、座、を、休
或、は、酒、座、を、過、す、と、中、上、を、召、す、を、何、の、り、も、向、合、一、つ、云、形、の
中、長、柳、を、案、り、と、中、上、を、法、中、上、人、徒、侍、系、履、丸

連く来るものなり

世雲形の長柄と云ふ中雲の雲形赤たより
雲形と云ふ帝の御車羽翠簾より右右の宛
十二支のつけの雲と云ふ親王方と云ふ宛の
十二支の掛家と云ふ清光と云ふ或は云ふ是成りて
雲の上人と云ふを安ぬ何と云ふの雲と長柄と云
前乃一平又寺の大師僧と云ふ一雲形の長柄

と云ふ

越前守及侍中付く誰殿の安んじと云ふは
侍行の取手に伏見大行院と云ふ世也三海越前
守上り安んじく越前守殿大行院の長柄の扱付

このみ笠脱く大行院殿女侍と云ふは誰殿女侍と
中赤井越前守と云ふは山出中殿より何年河建と云ふ
茶屋の女侍と云ふは中茶屋の女侍と
上り扱主人初と云ふ対面終く大行院能合の法と云
は海と云ふと云ふと云ふ越前守殿の安んじと云ふ
出世の法と云ふと云ふと云ふ公面白と云ふと云ふ
大行院中事と云ふは越前守殿何と云ふの筋と云ふ
と云ふは越前守殿と云ふは拙老後系部のみと云ふ
何年寺僧の扱取と云ふはと云ふはと云ふ大行院中
と云ふ扱取と何と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
後山と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

時越前守殿子達ふりし取成後より半僧六本山寺
聖護院宮の中より云々此の爲に成程若僧の作の
あり聖護院宮の流下より又畿内の判法ある
又伏見院様の御新御衣之洛中に此の御事あること
は云々御せし中より越前守殿中より云々半僧今此官号
は云々此の爲に云々大僧云々又同官大僧云
又此勅官成成と云々云々大行院中の聖護院の
の官云々云々云々此の勅官の檀僧都と同官又半僧
の家は勅友の大僧云々の友首より云々云々一向定
祖云々勅乃大僧云々云々云々越前守殿中ハ
云々官職云々云々云々の長柄云々云々云々云々大行

院云々云々の云々云々云々又越前守殿中云々此
の云々形乃長柄格云々云々云々云々一向格云
存云々云々云々長柄、伏見院様の大形成就云々
施物云々云々云々云々長柄云々云々越前守殿立云々
云々不届成坊云々の繩云々云々袈裟袋云々云々云々
繩云々云々云々云々云々云々云々可役人云々云々
云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々
云々云々云々云々越前守殿中云々法中云々人住云々
云々不残云々捕袈裟袋云々長柄の中云々大行院の繩云
物云々可幸云々云々云々云々云々云々云々云々云々
云々云々云々云々云々云々大行院宅に押懸云々云々云々

帝位調伏の形を法下拾八人なる形をなす也
とくく石捕の形は道具亦詮義せしに長廿五尺半
の相の形は蓋紙をとりしちちの形をいふは向形を
くも尚帝の清糸と書舟又寸釘少くわりあやうり
とて東人形と祀室前の形を法下拾八人なる形を
法下拾八人下男式人系部可幸の形をいふは
けり伏見殿占守の形をいふは社家流式人系部可
来り形をいふは法下拾八人伏見殿占守の形を
掲すある内其長掲出也一法下拾八人なる形を
是成法下拾八人なる形をいふは法下拾八人なる形を
上いふは長掲出也大切とてその丈はけり尚並

ありと扱扱と致すなり後法義とてまじり仕立
作付たる大内院向伏見社家より形をいふは
社家式人可幸の形をいふは法下拾八人なる形を
法下拾八人なる形をいふは社家流式人系部可
岩ありとて向伏見殿の形をいふは法下拾八人なる形を
法下拾八人なる形をいふは社家流式人系部可
後いふは法下拾八人なる形をいふは法下拾八人なる形を
とて清先之

七清花近くは外に年向門に柱に誰履年向角と
子札を掲げ又日敷とて年向角に子札を
掲げその日年向角に致す事也とて之を

御仕重

伏見春日町位宅

大行院

法下八人

式人

法下拾人

社家五人

一 樂

一 歩首

一 歩首

一 走馬

一 同

右通仕重御所... 上遊

此攝末教多...

右通仕重御所... 帝の御懐白

紙と度々... 御所より...

兵部下... 増威勢活...

家元を以て我回... 此後... 御所より... 大和守... 少くも...

二海と云ふ

吾妻大明神由来事

附諸運上新比子川上水事

家上佐列上列之境、新産山と云ふ有百佐山、
付山神武以来、硫黄山之池、人王曰、括九代光仁
帝の御宇、宝龜八年、能波女社の神託、付山之
佐列、浅間火飛福、八万民、雜義、乃、依、付山古
火徳の神を、享め、世に、硫黄を、其神、
ろ、ん、浪、の、雜、不、を、の、神、託、を、
初、免、る、江、列、日、台、一、宮、の、同、神、豊、卦、澤、
吾妻大明神由来事、付山、
一、表、の、内、源、治

の池に十八出、事、不見、後、思、の、神、集、を、
神、託、を、受、能、も、付、山、の、勸、誘、志、を、
あり、佐、列、の、火、飛、ち、る、も、山、上、に、
初、く、我、山、に、洗、心、操、不、淨、を、入、
黄、垢、色、の、一、、二、、三、、四、、五、、六、、七、、八、、九、、十、、十一、、十二、、十三、、十四、、十五、、十六、、十七、、十八、、
此、山、に、一、、二、、三、、四、、五、、六、、七、、八、、九、、十、、十一、、十二、、十三、、十四、、十五、、十六、、十七、、十八、、
上、納、を、一、、二、、三、、四、、五、、六、、七、、八、、九、、十、、十一、、十二、、十三、、十四、、十五、、十六、、十七、、十八、、
才、より、も、主、殿、の、殿、を、括、
上、列、又、も、佐、列、の、人、歩、を、出、
一、表、の、内、源、治

林の下に七葉年の童子視を此山の硫黄を場よ
おどくは迫固は太夏有下とさふく久くさくされた
誰ぞ入るものさか天下の威勢は何せ場も天の
二年七月上旬西風しく浅るの火共妻山に飛ん
山の七下一面は火に成りて摺入の池に泥糞より林の
下は押流し村敷二十六ヶ村糞泥より押流し砂溜り
たふすくを玉砂拾里と記し穢し神の死をさし
眼前に居る事多し教多の人民を殺し吾もと換毛
撒きも思成る事也又下総玉中場沼は神尾を獲て
元年のんをさし沼にちりて控立る事也蛇をけ
沼に動き事なり松本伊豆等夜は成り用は九人

思われ主殿の夜月番は是成り事なり
お竹くは動き味波下役し人多くは天下の事
はし操りて懼んとすれは川端よりて事石
斗の新田らしき不出来る世話をすは乃徳舟橋
の海へ堀割水を流し依り去砂より海成埋り由
捕所は焼高し難義成り又ある事あるは乃徳
和橋の田畑控りありありは沼の中は
八重の敷程の石をさすのよは地は人を生たさ
石の室殿よりけあし年々小蛇出く控りよりて
法場毎々天と徳人中に撒きさしけ法ありは毎々
乃徳援へし中りて又越後玉海に出雲も夜は

小方之里の池も是も赤井越ありて撒りて山動
以味及下役亦是を以てんかんとて之も中々大やう
怪事不叶是も近頃の百姓を難儀に成りて
眼前之又越前も度々取合も亦赤井出揚り焼油上
純う絞るとお取付成りて油も高貴液とて一の
採るも去年九拾圓宛上納り中付るも小百姓は納
り先支油も高貴座ありて之依り地油少くも
少く下り油も形も仍り中々天明年六月七月以
油ふりて法人難儀に及りて天下の山も
らんもの之も万民と語るも皆天下の山も其の難儀
も是皆是等の波とて之次も子川上水の流け上水

二流も多摩川の水とて一は純うけ水道を
そ又安の以て人々も少く堀樋とゆへに由井
丸橋の時もふとて是お止りて水家も松平伊豆屋
は此作渡りも伊豆屋町幸乃和も中々も其度
子川上水お止りて其後多摩川神田のあゝ
津も水も用合も多くなり又出合も合之堀樋も木
之末も其之是成之性にも其時火もたると其眼も
仍け上水お止りて純う天明年中取合も投
大濁り度取出し水堀り火防も世人も之を
堀りし水も少くも泥も同く之純うも上水
撒りし水も少くも其度拾七文も月も其の中付

至理非道の之付之然其後弟は元前毎日新と
地面を形を借家よりけ代より上名の被後紙
致るに蔵所の難儀大方より山家の火防あり
宜し次と法人員と記あるあり

田沼主殿の及申御札事

附醫者二人事

此より主殿の及後威勢活而元は目分仲人介の
誰より物となく奥向年寄元杯中全指事
未送り元主殿の及ありと云々の然る余り
控威活後年寄元とはと指し終りては
誰とありする主殿の及井伊掃部殿と大老殿

此後、不首尾の言を掃部殿の及おせんといふ
子と知りたる然るは高七月は
云方極小不倒と他は御服用の事々子實道隆
と云ふ医師の出来ありけ道隆は主殿の及後終
是の妻の親の御馬町に居りて成町に
主殿の及後全銀を合して御目見醫者とあり
此後醫者とあり御典茶目あり威を振ひる浪町
屋敷門前より大小名の首尾居りて
世道隆大小名より利の代目全成出は是成田沼全
有出世全云け全金子主殿の及出りて又道隆は
下る是より主殿の及申御札事と云ふ事と考し

安し徳をよけ道隆の山某々山病氣まじり
ある山曲某河社仙壽院橋宗仙院拈して喜柳
傳庵右の醫の立合々々調合して山某元上り流杖
徳の山折子ぬりし山大病元山曲某山書醫小普徳
心々山脈神何度々の組民もいふ形子庵しあり
山書醫小普徳の内より形ひ書人々其由
日本橋急住尾の若林致順と云ふ町醫同病の医
あり云後より此中いふ事知りまふらふ山書醫
きりたることわくこと武百儀の山書医の格も勅り
赤誠山書醫の後の山某徳々け致順う生立と云
る山生立九列の山七女と云ふ山書也と梅と云

あ眼と云ふ今世話とするものもふくく食因あり
毎日山山挨拶の宅の道某の歩りりり山
中もいふ山山申之食の小眼々々来々我い
男女多く百仕の眼み福も自分の不自由の
波々乃折りしの中いずる大い山書難哉成
庵し心折も余りあり食りしと云湯々々をせ是
山書と云中付世に扱聖朝波の山めくるあり
中付する山湯かとせを食りしと云山書
さう山山山山山山其方る今日も我子
なう山山山山山山山山山山山山山山山山
ちと山山山山山山山山山山山山山山山山

以之也 亦中 又水社出羽書後 出使之所 若林
致此 出茶 先上 山福 其元 換台 有之 此の 出使
より 時 出羽 書後 出使 致順 我主 殿 以 此 持
出脈 辨 伺 之 面 斗 之 山 某 之 一 向 其 坐 之 所
換 扱 之 丈 又 主 殿 以 後 出 使 之 出 扱 書 中 之 所
月 番 之 出 扱 中 之 出 脈 伺 之 在 年 之 丈 出 某 氏
出 扱 伺 之 面 上 安 合 之 丈 出 某 氏 之 一 向 之 所
如何 候 之 出 扱 中 之 出 脈 伺 之 一 向 之 所 遊 之
出 扱 書 中 上 之 所 之 津 田 日 向 書 後 出 扱 出 酒 戶
小 向 之 出 扱 中 之 出 扱 書 中 之 出 扱 書 中 之 出 扱 書 中
之 出 扱 書 中 之 出 扱 書 中 之 出 扱 書 中 之 出 扱 書 中

某を先上主殿 以 後 出 伺 之 不 首 尾 眼 前 之 出 扱 書
之 出 扱 書 中 之 出 扱 書 中 之 出 扱 書 中 之 出 扱 書 中
が 後 之 出 扱 書 中 之 出 扱 書 中 之 出 扱 書 中 之 出 扱 書 中
書 後 出 扱 書 中 之 出 扱 書 中 之 出 扱 書 中 之 出 扱 書 中
皆 之 不 首 尾 出 扱 書 中 之 出 扱 書 中 之 出 扱 書 中 之 出 扱 書 中
之 出 扱 書 中 之 出 扱 書 中 之 出 扱 書 中 之 出 扱 書 中 之 出 扱 書 中
出 扱 書 中 之 出 扱 書 中 之 出 扱 書 中 之 出 扱 書 中 之 出 扱 書 中
出 扱 書 中 之 出 扱 書 中 之 出 扱 書 中 之 出 扱 書 中 之 出 扱 書 中
病 之 付 之 出 扱 書 中 之 出 扱 書 中 之 出 扱 書 中 之 出 扱 書 中
出 扱 書 中 之 出 扱 書 中 之 出 扱 書 中 之 出 扱 書 中 之 出 扱 書 中
其 人 之 出 扱 書 中 之 出 扱 書 中 之 出 扱 書 中 之 出 扱 書 中

之不知及言甚夜中もろろのりて思ふを醫書に成
すに流する左の上も小恙とのりとも何れに主教
と回見ぬかると主教に赤い色の答のり成り
夜中これに皆く実を同公しく古友人乃面は夜
に夜の下り人うや進くと待居るも主教に夜中
伊勢も夜同なる退し之れも古友人の面は力る
主教に白ひのり中なる、暫し和らぎも少く山空
寂我らもすも子細い余の儀、形も主教に山曲茶
死元苗町送同前、某成死元上りも山病氣を
山大切之恙も山家方を我く山答信もその時何事
漢に結成世儀何と信ありとも主教に夜に二之を換扱

とよく居られろ答く山返言承ると勝立速し中
事の時伊勢も夜答くの中、押入中なるも山を至
極、彼之云方極山大切り打り、物路も後を
いかにろる言方始中拙返と難儀に山答は、眼赤
先く伊勢も山返言承る後刻伊勢も山返言
中、座くとも有られ、また主教に夜に云理、退出
させ中なるも今山主教に夜返言承る、山一赤い
ぬきもわれも山小姓山小細りの中、山主教に夜
の縁敷政も新しそ没智致す方仁も山空に山系
ゆのみ、山返せしり、山答に物も古友人の面は
山大切も物路も後を、山理をわんく、山を空

くつろぎ概々虎々雑々ありと退きおぼし

一々評定家老之人水野出羽守殿に書す

附芳野金山へ奉

純々又日朝主殿に及家来井上潮田之浦之人を
出羽守殿に古事は周防守殿に及合する者も其
後々八洲之主殿に及々御付今日出登城延門に
出御上より別白御託は思召と有る御力
落さぬや大切は致す一々御作治志之人を雑々
出請中上御海純々之主殿に及病氣に及る御三
其百出人御して西尾流渡守殿に御付依り又
二人の家来は古事御作治志之主殿に及御大切

不致在中渡より如何に御一時は起る病ひもれ
其其方在不意に御致する義多度出此より御
事同日方有右之人の中浦庄司と申者も人
月番の中より出御去き通先上より只今迄
之後主人主殿に一向は存る御致する御治致
多る事より月番より御治連上り御人より之
とも主人に及る御中拙に御すすめ御
出渡留る御御の控つ一通し全銀をせせ御
算測の者成抱融通令の多割を御成其芳
野金山へ御主人に及る御中拙に御すすめ
御出せし御主人の御人より如何に御出せ

此作能く下ら奉りしをけし中なる小園防ち夜虫相
書後作もるいぬ程主人をいふ我身成捨んといふ
之象をいふれもけ度の後も山菜一通りの香又殿
中へ後一向信信の存るあり又法運上没智承
後節もあさし中たる後安捨るもぬる論後
の内を殿以家中に庄司以成りもぬる論後
高能くさふいけ志ありし能くは相列苦壯日本
二ヶ所の金山之奥列金山甲只甚丈山是八日蓮上人
云々能くよけ二ヶ所の金山成場の時、其時代の天下
よ不吉なる事首より其教を知りし能くよけ
其多事心裁し、教人の成幸よ奥向成捨る天下の

其為之と是を場とせし能く、天下の不吉成捨る、
運長考て君成とせし及理ん

二、評定主殿以没出先も

相殿中少く評定亮りて以列在る面、小、相平
肥後書及山大光井保掃部以及その外山也中若
年寄法没人お浩る相田治主殿以相系越中書
山古之主殿以少く病氣在而尾隠波書在出牧野
越中書及源波書及山作波書、主殿以後承く
忠勤、知病氣、うらな書中没出先、作月属る
浩、作月追、山評候、うらな、作後、源波書難

二、評定松本伊豆守不首尾同人又々来る事
安藤對馬守名云々

德川九日評定松本周防守殿宅に於て以て
面々、此大老井伊掃部殿、以月番水野出羽守殿
牧野越中守殿、安藤對馬守殿、川崎右衛門守殿
松平對馬守殿、安藤對馬守殿、川崎右衛門守殿
松本伊豆守殿、川崎右衛門守殿、川崎右衛門守殿
織部守殿、川崎右衛門守殿、川崎右衛門守殿
曲淵掃部殿、川崎右衛門守殿、川崎右衛門守殿
白根守殿、川崎右衛門守殿、川崎右衛門守殿
その外、川崎右衛門守殿、川崎右衛門守殿、川崎右衛門守殿

倭に吾に有通リ、川崎右衛門守殿、川崎右衛門守殿、川崎右衛門守殿
難波守殿、川崎右衛門守殿、川崎右衛門守殿、川崎右衛門守殿
後家守殿、川崎右衛門守殿、川崎右衛門守殿、川崎右衛門守殿
凡そ此度、倭に御新座標、以て之の通、川崎右衛門守殿、川崎右衛門守殿
尚名守殿、川崎右衛門守殿、川崎右衛門守殿、川崎右衛門守殿
毒害守殿、川崎右衛門守殿、川崎右衛門守殿、川崎右衛門守殿
お掃部守殿、川崎右衛門守殿、川崎右衛門守殿、川崎右衛門守殿
川崎守殿、川崎右衛門守殿、川崎右衛門守殿、川崎右衛門守殿
おれ、お掃部守殿、川崎右衛門守殿、川崎右衛門守殿、川崎右衛門守殿
二、海、川崎守殿、川崎右衛門守殿、川崎右衛門守殿、川崎右衛門守殿

名医丸全銀出世し心まうし二葉取斑猫紫地の歌ハ
とまじと成し其病は尚も葉取斑紫地と武小使を
面或は食ふをすはせし杯しと性も病をすまじ
乞醫道の法を肖し乞醫の技を處へと常此れハ
産中へ高し暫く之をとりあふりあるは後を葉取
斑中中より高し尚も白山葉仕掛は其かまじと付の
種もとと存し乞醫の處を武能清死たる山葉一匙許
垂りり山同は掛り中成り中これハ水野出羽も後そ
山葉是之とまじこれハ玄葉取斑中より山子其の換り
乞醫の處は親敷ふれハ山山葉山同は掛り難成と
中中これハ親敷とまじ一三三ハ出羽も後と赤面

とまじと安藤對馬も後中中もハ玄葉取斑中入りの
山葉取斑ハ山同これと中中これハ性ハ山同中上
より入角もまじ山同中中中これハ對馬も後
心も其思ふハ山葉取斑中中多人の人乃難成人許ハ
奇りハ上ハ取斑中中を考一紙もまじも若し山葉
出せと何と後目ハ山同中中出り常之誠ハ山同
と思ふ情ハ山同中中取斑中中末の出世中中中
拍又曲測甲斐も後中中中ハ一所の揚者も配下若林
取斑取斑中中中中中中中中中中中中中中中中中
荒増中中中中中中中中中中中中中中中中中中中
取斑中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中

子と申す者之と云ふれば伊豆島夜對馬島夜白
一節中より、子其務子と、山之系其不其存と感文を
一感と申す者も、對馬島夜對馬島、一を許す
交を其務子と云ふも、許す、知るとも、中其務
而、地頭、世市場、沼、雜、長、波、と、又、一、條、の、形、と
是、者、有、之、是、と、一、中、を、一、條、と、云、ふ、事、も、一、中、

才一 中場治撒り小没人此色の百姓家上蔵泊り上

才二 沼道と名の小百姓は沼と年々小魚と丸高の波と白の

才三 後世を波と名の事、雜、長、波、と、云、ふ、事、も、一、中、

才四 雑割り古の海怪、一、中、を、一、條、と、云、ふ、事、も、一、中、

才五 始割り古の海怪、一、中、を、一、條、と、云、ふ、事、も、一、中、

右又、今、条、一、節、と、其、許、物、一、之、綴、新、田、也、東、波、と、云、ふ、事、
和、之、の、田、畑、を、荒、一、天、下、の、山、為、一、作、と、云、ふ、事、も、一、中、
の、大、切、成、上、田、成、換、と、云、ふ、事、も、一、中、
一、条、の、務、子、一、條、の、也、右、一、條、中、披、一、是、と、云、ふ、事、も、一、中、
一、条、の、事、一、其、耐、越、中、也、右、一、條、中、一、中、
初、之、れ、一、御、用、多、一、伊、豆、島、と、云、ふ、事、も、一、中、
山、花、全、銀、米、錢、出、入、大、漫、動、之、也、伊、豆、島、と、云、ふ、事、も、一、中、
追、一、條、中、一、月、番、也、中、一、條、中、一、條、と、云、ふ、事、も、一、中、
雜、之、一、條、中、一、條、と、云、ふ、事、も、一、中、

申し評定赤井越前も油運上不安合す事

附し九月廿四日青松平岡房も後山宅の申す評定
有る松平伊豆も後赤井越前も後山宅の安藤對も後
赤井越前も後山宅も今年焼油運上ハ何程出
又岡車に油ハ何者何人程も出テ此後ハ凡圖
車ハ大又採七百余少採子百余人も此山産も出
中上も是採ハ何程の上納ハ何程も此ハ是採
何九拾目宛ハ也是采入も是年何程位利も出
是のよき也後何程も出テ百姓中後何一何
分り事ハ何程も出テ中何程も出テ此等利子
成安礼其上ハ上納中何程も出テ此等利子ハ

荷取ハ何程も出テ中何程も出テ是是那も九拾目
の上納中何程も出テ是是那も九拾目の上納中
下年小工採目位何程も出テ九拾目の上納中
時何程も出テ七百石の難本何程も出テ此子の役
を云何程も出テ同業ハ何程も出テ小百姓油成也
也此油油すは天下の油勝元を云何程も出テ
是是嵩城ハ不毛も出テ又用是合何程も出テ
油多ハ此用一向先も出テ月書若羊安也何程も
利ハ是是下ハ出テ難本何程も出テ先も出テ何
事ハ此是下ハ町書其也何程も出テ難本も出
是火を思ハ小成思也何程も出テ是火も出テ

と申すは、越前守一とて、自ら赤面して居られ
る。時、越中守、後、申すは、只、伊豆守、中、渡、後、申す
下、勘、定、大、海、内、田、安、兼、常、長、海、物、知、り、あ、任、在、り
山、光、之、電、城、務、子、之、事、由、之、一、の、作、後、之、赤、井
松、本、難、立、上、徳、中、上、之、彦、成、立、上、時、山、曲、某、乃
之、老、清、初、彦、持、より、再、之、山、徳、又、之、登、城、
之、く、醫、某、之、之、之、清、容、神、主、之、の、山、奥、向
法、没、人、之、成、之、の、ある。叔、九、月、又、日、七、日、近、清、之、家、始
大、山、之、清、機、操、何、置、登、城、之、山、曲、某、之、夜、心、成、之、以
甲、斐、之、之、之、清、之、九、月、八、日、已、刻、山、他、界、之、任、之、
殿、中、上、下、申、之、之、之、袖、を、候、之、時、山、戸、可、之、

藩、成、成、る、之、八、日、の、未、之、刻、より、十二、日、迄、高、の、体、
之、の、同、申、刻、之、普、徳、之、物、停、止、之、旨、以、觸、之、作、出
系、於、之、之、山、是、十、三、日、清、乃、根、鉄、之、常、之、人、山、是、り
官、徳、之、之、之、作、付、之、

許、曰、哉、之、清、之、の、か、之、の、之、之、之、之、
之、之、武、百、石、之、之、百、石、之、之、近、之、身、之、致、之、之、之、
者、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、
之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、
我、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、
之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、
之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、
之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、

活波の主人教多九郎子前様をいふれ此氣毒
子方なるをいふるも名度世活の波振と安徳各
一被全銀五とて記さず不操田沼殿と別合する
何首より先清上と田沼と松本と二別之
乃記よいけるもいふる中にとりていふも少く
かゝ其身ハ句備氣も付は只何事も能と
其思ふも我りていふるれ赤井殿も同じく田沼殿
と合解る是と教ぬる人ふれは只歌の清
公果の九斗まじり九射馬も殿方の山為りて
言ふもいと記えの考ふる人ふれは只歌の清
時いふるもあつるれは我身ハ難義に成るは

知つる人よつる縁を時よ来の天よりのふし
わらふまのふしは町人百姓のふもに斗るも
能ふといふるも主人も教ぬるは家来とて
よはひのふしを付するもいふるも又家来とて
悪成ふもせらるるも主人のふりて人方とて又
田沼松本赤井の納りて名をぬるも
赤井殿も退後する
徳も赤井殿もいふるも月多牧野殿もいふるも
は清井舞禮一式を外上社清靈屋物裁りて
よの後の教ぬるも夜難るも少清とて田宅とて
或はの上首尾に訪人かをいふるは記記を多し
殿もいふる

京都法司代に親王方と藤原後醍醐天皇と
と成すに戸部沙汰とて致しと致すも
可幸なりと高木多親王持統天皇の御
外にこの家元とせしめられ致すも藤原内
と御海に依り世に左大臣と成すも大
没すも付く是は授けし時より及非能く
應多しとて没すも不付くもの致すも
の智果面白と仕方あり

許曰致すも藤原持統天皇の御
世に首尾能くしりし時を罪しつと
道理なれども流石仕はるる人なり中付る

成應一久去余大没在あふさこの人

因治之殿に法親教難縁と来

叔父殿以後法親教多かりし中より
子息中務少輔殿に父実子に許すも
親教と云はれしもの賜は絶は世に
中務少輔殿を難縁と

許曰出羽守及中務少輔殿を
脱せし上位也少しも是れは
中務少輔殿に罪親なり親の罪子に
ふまはる不及是非を去る
中務少輔殿と家来と心妻と父と母と大に

舟を勤むる舟の如くはれ今其先世出羽の
岸をこれ舟の舟の表出るも面白くして
此世より衣被を先智曰く麻下下蒲巻
の上より切被を流石の如くはれ

中勢お捕及たはる事法親類の如く連理し
中子の如くはる事先世生れ枝を如製我先世
はる世思ひつる年七倍余業は乃ん子孫は難義
とわけはるも若他人より先世を勉め也
減し悪を工するは悪信是集りてはる
百教の如く人の悪はぬる先主人たるもの常に

是れはとぬる人目成りてはる家来は立振る能く
公府の如く是れはる應はる鬼角は先世の人
はる子れは一國形を先世の理をりすはる
一つと後るはるはる成りて上と下はる
あはれはる

爰物論終

Handwritten text at the top of the right page, possibly a title or header.

Main body of handwritten text on the right page, written in a cursive script.

Handwritten text at the bottom of the right page, possibly a signature or date.

Handwritten text at the bottom left of the left page.

Handwritten text at the bottom center of the left page.

